

10代の性の知識と現状 2

—性教育の実施と性教育による意識の変化及び保護者からの影響—

吉村浩美

(西九州大学短期大学部 生活福祉学科)

(平成22年2月9日受理)

About Knowledge and the Present Status of the Teenage Sexual Intercourse

—A change of the consciousness by enforcement and the sex education of the influence from a protector—

Hiromi YOSHIMURA

(*Department of Life and Welfare, Nishikyushu University Junior college*)

(Accepted February 9, 2010)

Abstract

I performed a questionnaire about the knowledge of the sexual intercourse of the student and performed sex education in reference to the contents. And I examined the effect. In addition, I report it because I examined the relations of the thought about the sexual intercourse of the student how a student catches an opinion about the sexual intercourse of the protector.

Key words : Sex education 性教育

The opinion of the protector 保護者の意見

I. はじめに

佐賀県は平成18年度10代の中絶がワースト1となった。このことと教育現場での性の現状を踏まえ短期大学生、高校生、成人にアンケートⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを行った。短期大生のアンケートⅠ、Ⅱ、Ⅲの結果については前回『10代の性知識と現状1～短大生へのアンケート結果から～』という内容を佐賀県小児研究会で発表した。今回は平成20年度、21年度の短大での性教育の状況と短大生の性教育前後の意識の変化（アンケートⅣ）及び保護者の考えが学生の考えに及ぼす影響について報告する。

Ⅱ. 研究方法

1. 学生の意識の現状把握

1) 平成20年9月

全学科を2つに分けて性についてのアンケートⅠ(407名)を実施

2) 平成21年4月～5月

アンケートⅡ、Ⅲ(180名)を実施

2. 把握した内容による性教育の実施

1) 平成21年4月

・アンケートⅠの内容を基に全学科の2年生に性教育(180名)を実施

2) 平成21年4月～7月

アンケートⅠの内容を基に全学科の1、2年生各クラス別に禁煙教育と同時に性教育(292名)を実施

3. 性教育による意識の変化のアンケート調査

1) 平成21年4月～7月

性教育前後のアンケートⅣ-1(292名)を実施

4. 保護者の考えについてのアンケート調査

1) 平成21年度7月

アンケートⅣ-2(58名)を追加実施

Ⅲ. 結果と考察

1. 学生の意識の現状（アンケートⅠ、Ⅱ、Ⅲの要約）

佐賀県小児研究会で発表した『10代の性知識と現状1～短大生へのアンケートの結果から～』の内容の要約は以下の通り

“生命の尊重について学んだ”と答えたのは7割であるが、“性教育”を受けたと答えたのは99%であり、ほとんどが学んでいる状況であった。しかし、性教育で学んだ内容は、8割が“性感染症”についてであり、“避妊の具体的な方法”は4割が教育を受けていないと答え

た。又、“避妊の必要性”や“避妊の方法”を学んだと答えたのは女子に多かった。“学校以外での性の情報源”は、友達で特に中学生の時に得ており、内容としては“性行為の方法”や“性欲の処理”について等であった。他の性の情報源としては“インターネット”や“先輩”や“TV・ビデオ”からの情報も中学生の時に多く、特にこれらは女子よりも男子に多かった。性についての情報だけではなく、性に対する相談も、知識をあまり知らない者同士である“友達”にすることが多く、正しい回答を得られにくい状況にあると思われる。他には、“彼氏、彼女”や“病院”や“同性の家族”に相談することも多い。養護教諭を含めた“教員”への相談は1割に満たなかった。もっと相談しやすい工夫が必要であると思われる。

妊娠、中絶に対する考えで“学生の間は避妊する”と答えたのは6割、“もし妊娠したら産みたい”と答えたのは女子が4割で男子は2割であった。

性交に対する考えは“相手が好きならかまわない”が6割近くを占め、“結婚を前提とすべき”は3割、“結婚後に性行為をすべき”は1割みられた。“酔った勢いで性交はありえる”が1割弱であった。

“避妊に対する知識”では、性感染症予防の効果が高い“コンドーム”が一番知られていた。しかし“コンドームの詳細な知識”は2割はあまり知らず、他の知識への回答をみても避妊のための知識に乏しい現状がうかがえた。また、“ピル”に対しての知識は男女で差があった。“基礎体温”についての基礎的な知識（測り方、意味するもの）は1割の人しか知らなかった。

ワースト1であった平成18年度に10代であった学生が考える“10代の妊娠中絶が多い理由”については、“知識不足により避妊をしない”ことをあげている。中絶する理由は、“経済的に無理である”からで、育てていけない状況なのに知識不足により妊娠して中絶に至っている様子がうかがえた。

現在、性教育は性感染症に焦点を当てている場合が多く、性に関する詳しい知識は性教育の中から意図的に避けられている場合もあり、正しい知識を知らないまま10代を過ごしており、興味本位で情報を入手し、その情報を友達に広げていき、正しい情報を知らないまま性交を行っていると考えられる。このような状況から特に情報がいきかう中学生の時期に、命の大切さ、妊娠・生理のメカニズム、性感染症の教育に加え、性交、避妊、妊娠中絶についての正しい教育を増やしていくことが必要であると考えられる。また、性交の率が増えると思われる高校生の時や大学入学前後に、具体的な避妊方法も含めた性教育が必要になってくるとと思われる。

2. 性教育の実施

1) 平成21年4月～5月

① 学生へのアンケートⅠの結果による性に対する意識の現状について

表1 性についてのアンケートⅠ
(H20年9月29日)の結果(回答数407名)

《今までに性教育を受けた経験がある人》	99%
《これまでの性教育で学んだ内容》	
1位 性感染症について	86%
2位 避妊の必要性	80%
3位 性感染症の予防方法	77%
・避妊の具体的方法を学んだ人	60%
《今までに生命の尊厳について学んだ人》	72%
《学校以外では、いつだれに教わったか》	
1位 友達	59% (中学32%、高校24%)
2位 TV、ビデオ	26% (中学14%、高校7%)
3位 週刊誌、雑誌	24% (中学13%、高校9%)
《妊娠、避妊についての考え》	
1位 学生時代は避妊する	70%
2位 学生時代でも妊娠したら産む	39%
3位 わからない	17%
《性交についての考え》	
1位 相手が好きならかまわないと思う	58%
2位 性交は結婚を前提とする人とすべきと思う	36%
3位 性交は結婚してからすべきだと思う	15%
酔った勢いで性交してしまうこともあり得る	7%
嫌われるのが怖くて受け入れることもある	7%
《あまり知らなかった知識》	
1位 膣粘液が多いときは妊娠しやすい	82%
2位 次の生理日の19日前から13日前が妊娠しやすい	78%
3位 ピルは避妊率が高いが服用をきちんとしないと効果が減	51%
・生理中でもの妊娠することがある	45%
・膣外射精でも妊娠することがある	42%
・コンドームは完全な避妊にならない	19%
《自分が行うだろう避妊の方法》	
1位 コンドーム	86%
2位 ピル	19%

3位 膣外射精	14%
・避妊しない	1%
《性についての相談相手》	
1位 友達	75%
2位 彼・彼女	43%
3位 母親	37%
・相談しない	15%
・教員	8%
《基礎体温の測り方》	
よく知らない	74%
《基礎体温表の見方》	
よく知らない	92%
《中絶の方法》	
よく知らない	69%
《10代の中絶の理由は何だと思うか》	
1位 避妊の知識はあるが安易に考えて避妊しないから	71%
2位 経済的理由(育てる経済力がない)	62%
3位 避妊の知識が不足しているから・育てていく自信がないから	48%

(順位を示しているものは全て複数回答)

表2 アンケートⅠの結果による性に対する現状の説明内容

・性感染症の知識も大切だが、妊娠、中絶、避妊についてももっと知らなければならない
・避妊の具体的方法を学んだのは60%しかいない
・学校以外では中学時友達から知識を得ている
・中学時代でも妊娠したら産むと思っている人が39%いる
・相手が好きなら性交しても構わないと答えている人が58%いる
・性交は結婚を前提とする人とすべきが15%であるが、結婚するつもりの人とのつもりが短大卒業後別れる人が多い。女の子は今の人と結婚をという意見多いが、男の子はまだまだ結婚するつもりはない子が多い現状を知る。今の恋が結婚につながるとは限らない。自分を大切に。
・酔った勢いで性交することもあり得る人が7%おり、男子に多い
・断って嫌われるのが怖くて受け入れることもあると

いう人が7%いた。断って嫌いになるような人ならこっちから願ひ下げてください。

- ・性交は結婚してからと思っている人が15%はいてくれた
- ・粘液法や妊娠がしやすい時期やピル、生理中の妊娠、膣外射精での妊娠の可能性についてよく知らない人が結構いる
- ・避妊にコンドームを使う(だろう)と答えていない人が15%いる
- ・性について相談する人がいない人が15%いる
- ・基礎体温の測り方を知らない人が74%いる
- ・ほとんどが基礎体温の見方を知らない
- ・中絶方法について知らない人が69%いる
- ・10代の避妊が多い理由として安易に考えて避妊をしないからが71%、避妊の知識が不足しているからが48%であった
- ・性欲は子孫繁栄のために動物に与えられた大切なもの。ただそれをきちんとコントロールできるのは人間だけ。相手の体、心、自分の体、新しい命を大切にするためにきちんと考えた行動をとりましょう。

21週までは頸管拡張、子宮収縮薬により陣痛起し排出

- ・悲しい結果にならない為にどう行動すべきか

② 冊子の説明(ユートピアハンドブック)

- ・コンドームのつけ方、相談機関等について説明。

③ 感想記入

「もっと相手や自分を大切にすべきだと感じた。」

「もっと早く知りたかった。」「他の人がどう思っているか知ることができてよかった」等、今回性教育を受けてよかったという感想がほとんどであった。

2) 平成21年度7月～9月(禁煙教育と同時実施)

① 受精、基礎体温、避妊方法、中絶について

② ピルについてのビデオ視聴(28分)

- ・ピルの効果と副作用

③ 感想記入

「ピルについて副作用があることは全く知らなかった。」

「リスクも知った上で判断すべきであると思うのでリスクの知識も知っておくべきだと思った。」「安易にピルに頼ってはいけないと思った」等ピルについての驚きの声がほとんどであった。

3) 今回、性教育を行っての感想

学生の感想を読んで、性教育を真剣に聞き、真面目に捉えてくれていると感じた。詳しい性教育が安易な行動を助長するわけではないことを実感した。

3. アンケート調査

1) アンケートⅣ 対象者、人数、実施日

西九州大学短期大学部

生活福祉学科 1年生 29人平成21年5月8日Ⅳ-1

2年生 14人平成21年5月8日Ⅳ-1

専攻科福祉専攻 14人平成21年5月12日Ⅳ-1

幼児保育学科 1年生 58人平成21年7月1日Ⅳ-1、2

2年生 103人平成21年4月21、23日Ⅳ-1

食物栄養学科 1年生 53人平成21年4月24日Ⅳ-1

西九州大学こども学部

1年生 20人平成21年4月24日Ⅳ-1

2) アンケート内容

表4 アンケートⅣ-1

アンケートⅣ-1 (性教育前)

1. 今の性行為・妊娠・避妊・中絶についての考えに近いもの

表3 アンケートⅠであまり知らなかったと答えた知識の説明内容

- ・妊娠、受精の方法
- ・基礎体温の測り方、基礎体温と生理との関係
- ・避妊について
方法、種類、現物、安全日はない、
コンドームは100%安全ではない等
親に言えず産んで殺してしまった子の事例
妊娠を伝えたとたんに連絡が取れなくなった彼の事例
アルバイト先で彼ができて妊娠中絶多い。責任がない行動例
- ・中絶について
方法、費用、身体的リスク(中絶で一生不妊になった事例)
精神的リスク
(中絶し心傷をとからだに影響持っている事例)
(中絶した人、自分を責めない)
親への相談の大切さ(精神的リスクが減る)
妊娠5週で心拍・・・最終月経の1日目から計算
(受精の2週間前から計算)
妊娠12週・・・人間として完成・・・以後は人としての届出が必要
妊娠中絶により身体的に負担あり
12週までは掻爬

1) 性行為について

- ア. 性交は結婚を前提とする人で行なうべき
- イ. 性交は結婚してから行うべき
- ウ. 相手のことが好きであればかまわない
- エ. 断って嫌われるのが怖いから受け入れてしま
う
- オ. 酔った勢い等で性交することもあり得る
- カ. 学生の間は性交しない
- キ. 卒業して産める状態になってから行う
- ク. わからない

2) 避妊について

- ア. 学生の間は避妊《コンドーム・ピル・フェミ
ドーム・基礎体温・膣外射精・》する
- イ. 相手が避妊しなきゃならぬそれに従う
- ウ. 真剣に避妊しなくても赤ちゃんはほとんど出
来ない
- エ. 相手が避妊しないなら説得する
- オ. 相手が避妊しないなら別れる
- カ. わからない

3) 中絶について

- ア. もし今 妊娠したら、中絶する
- イ. 学生時代でも、もし妊娠したら産む
- ウ. 中絶するときは親に相談する
- エ. 中絶するときは友人に相談する
- オ. 中絶するときは先生に相談する
- カ. わからない

表5 アンケートⅣ-2

アンケートⅣ-2 (性教育前、Ⅳ-Iに追加)

2. あなたの保護者(母親、父親、祖父母等)の性行
為、妊娠、中絶に対する意見について当てはまるも
のにすべて○、またそれは誰か(複数回答可)
- ア. 保護者は婚姻前の性行為に対して反対である
(と思う) → (父・母・その他の保護者)
 - イ. 保護者は婚姻前の性行為を認めている (と思う)
→ (父・母・その他の保護者)
 - ウ. 保護者は婚姻前の妊娠について反対である (と
思う) → (父・母・その他の保護者)
 - エ. 保護者は婚姻前の妊娠について認めている (と
思う) → (父・母・その他の保護者)
 - オ. 保護者は中絶に反対である (と思う) ので妊娠
したら (させたら) 産むように言うと思う → (父・
母・その他の保護者)
 - カ. 保護者は婚前(学生時代)の妊娠、出産に反対
すると思うので妊娠したら (させたら) 中絶する

ように言うと思う → (父・母・その他の保護者)
キ. その他 () → (父・母・そ
の他の保護者)

表6 アンケートⅣ-1

アンケートⅣ-1 (性教育後)

1. 今の性行為・妊娠・避妊・中絶についての考えに
近いもの

1) 性行為について

- ア. 性交は結婚を前提とする人で行なうべき
- イ. 性交は結婚してから行うべき
- ウ. 相手のことが好きであればかまわない
- エ. 断って嫌われるのが怖いから受け入れてしま
う
- ク. わからない
- オ. 酔った勢い等で性交することもあり得る
- カ. 学生の間は性交しない
- キ. 卒業して産める状態になってから行う

2) 避妊について

- ア. 学生の間は避妊《コンドーム・ピル・フェミ
ドーム・基礎体温・膣外射精》する
- イ. 相手が避妊しなきゃならぬそれに従う
- ウ. 真剣に避妊しなくても赤ちゃんはほとんど出
来ない
- エ. 相手が避妊しないなら説得する
- オ. 相手が避妊しないなら別れる
- カ. わからない

3) 中絶について

- ア. もし今 妊娠したら、中絶する
- イ. 学生時代でも、もし妊娠したら産む
- ウ. 中絶するときは親に相談する
- エ. 中絶するときは友人に相談する
- オ. 中絶するときは先生に相談する
- カ. わからない

2. 今日の性教育で知らないことがありましたか

- ア. 多くあった
- イ. 少しあった
- ウ. 知っていたことばかりであった

3. 性交に対する意識が変わりましたか

- ア. たいへん変わった
- イ. 少し変わった
- ウ. 変わらない

4. 具体的な避妊方法等の詳しい性教育はいつごろ受
けたほうが良いと思いますか

- ア. 小学《 年生》
- イ. 中学《 年生》

ウ. 高校《 年生》

エ. 大学生

オ. その他《 》

カ. わからない

5. その他、妊娠・中絶・避妊に対する意見・感想

6. あなたの性別は《男性・女性》

3) アンケート結果と考察

①性教育前後の意識の変化（性行為について）

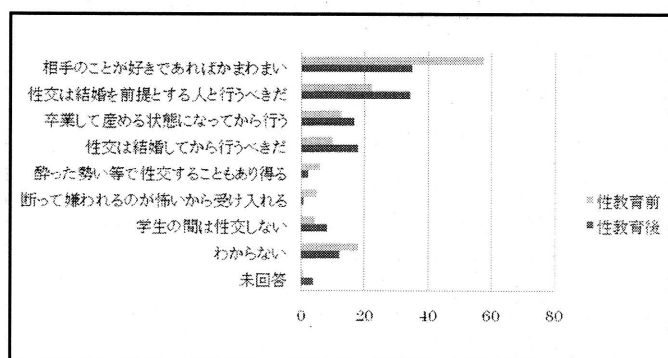


図1 性教育前後の性行為についての意識の変化

N=292（複数回答）

図1のように、“相手のことが好きであれば性行為を行っても構わない”という意見が性教育前は58%に対し性教育後は35%で有意に減った。また、“性交は結婚を前提とする人とすべき”という意見は22%から34%に有意に増えた。“性交は結婚してから行うべき”は10%が18%に有意に増えた。“卒業して赤ちゃんを産める状態になってから行うべき”は13%が17%に、“学生の間は性交しない”は4%が8%へ、わずかながら増えたが有意差はなかった。“酔った勢いで性交に至ることもあり得る”は6%が2%に、“断って嫌われるのが怖いから受け入れる”は5%から1%に有意に減った。すべての意見がいずれも安易な性交を行わない方向に変化しており、今回の性教育では安易な性行為に歯止めをかける方に変化させる効果があったと思われる。

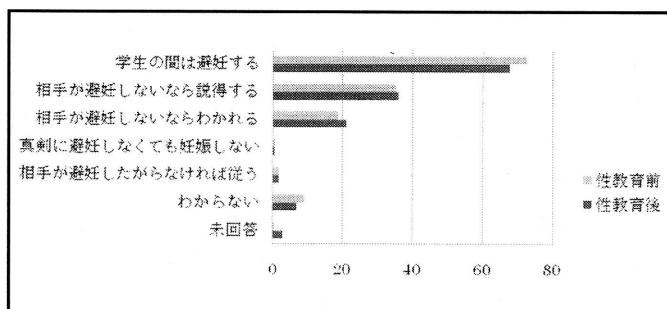


図2 性教育前後の避妊についての意識の変化

N=292

② 性教育前後の避妊についての意識の変化

図2のように、今回の性教育では“学生の間は避妊する”は少々減り、“相手が避妊しないなら別れる”や“説得する”が少々増えてはいるが有意な変化ではなく、今回の性教育の内容では避妊に対する意識を変化させるには至らなかった。“学生の間は避妊する”が減った原因を見てみると、安易な性行為をしない方向に変化したことが影響している可能性はある。

③ 性教育前後における中絶についての意識の変化

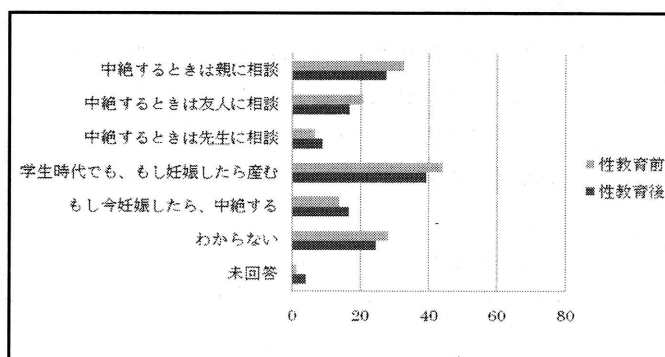


図3 性教育前後の中絶についての意識の変化

N=292

図3のように中絶についての相談相手は“親”や“友人”がわずかに減り、“先生に相談する”人がわずかに増えたが有意な差には至らなかった。また、“妊娠したら産む”人がわずかに減り“中絶する”人がわずかに増えたがこれも有意な差ではないが性教育の内容が多少影響した可能性はあり、学生時代は育てるのが大変なことだから産まずに中絶する方向に意識が動いた可能性はある。今回の性教育の内容のどの部分がそうさせたかを振り返る必要はあるが、図1の有意な変化から見ると、育てていくのは大変だからまずは安易に性交をしないようにするにはいけないと考えた結果産むことよりも中絶に傾こうとした可能性はある。

④ 今回、性教育を受けて今まで知らなかった内容があったか

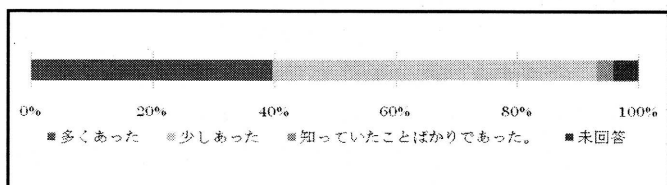


図4 今回の性教育の内容で知らなかった内容があったか N=292

図4のように今回の性教育の内容で“知らない性の知識が多くあった”が40%で、“少しあった”人の53%を

加えると、93%の学生が性の知識でまだまだ知らないことがあったことがわかる。その知らない性知識のまま性行為を行っていることが妊娠、中絶につながっていると思われる。“知っていたことばかりであった”と答えた学生は3%であり、その学生について見てみると、出身高校が性教育の重点教育校であった学生であり、高校でしっかり性教育を受け、十分知識を得てきた学生であった。その学生の感想には「再度確認できてよかった」と書いてあり、十分教育を受けてきた学生に取っても、高校の時に学んできた知識を思い出すいい機会にはなっていると思われる。

⑤ 性教育前後で意識は変わったと思うか

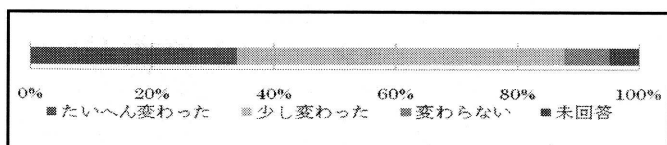


図5 性教育前後で意識は変わったと思うか

N = 292

図5では、今回の性教育前後で性に対する意識が“たいへん変わった”と答えた学生が34%であり、“少し意識が変わった”と答えている学生を加えると今回の性教育で“意識が変わった”のは89%で、“変わらない”人は5%であった。ほとんどの学生が性教育によって意識が変わったと感じている。

⑥-1 今回のような内容での性教育の希望時期

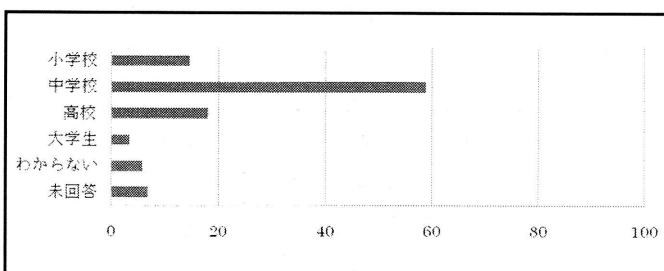


図6-1 詳しい性教育をいつ受けた方がいいと思うか

N = 292 (複数回答)

図6-1のように“今回のような内容の性教育をいつの時期に受けていた方がよかったと思うか”について問うと59%が“中学生の時”と答え他の時期より断然多く、次いで“高校生の時”が18%、“小学生の時”が15%であった。

⑥-2 性教育の希望時期 (学年)

図6-2で“今回のような内容の性教育をいつの時期に受けていた方がよかったと思うか”を学年別にみると、24%の人が“中学1年生の時”に知りたかったと答

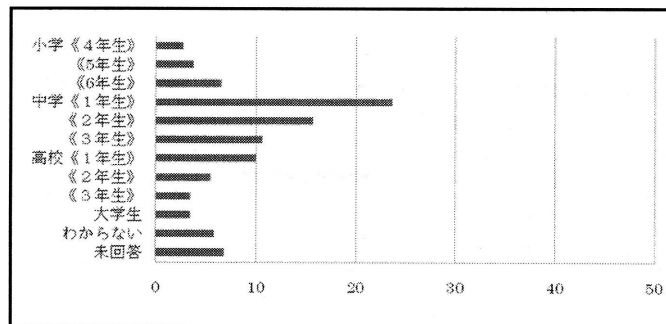


図6-2 詳しい性教育はいつ受けた方がいいと思うか

(学年別) N = 292 (複数回答)

え一番多く、次いで16%の人が“中学2年生の時”と答えた。前回のアンケートⅠⅡⅢからみると、中学生の時は性行為について友達から多くの性知識を得る時期であり、この時期に性行為の方法や性欲の処理、妊娠、中絶、避妊について、もっと正しくて詳しい知識を必要としていると思われる。

⑦ 学生が捉えている妊娠、中絶等に対する保護者の考え

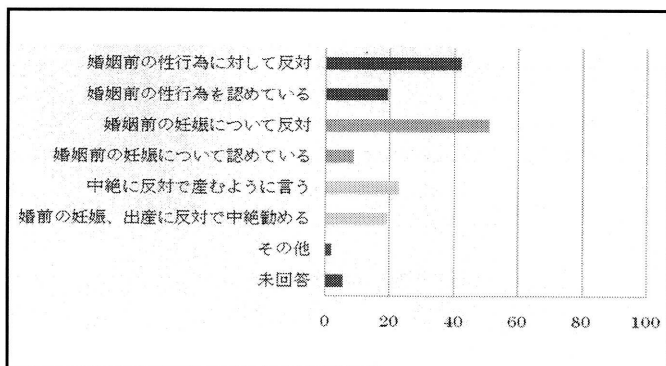


図7 学生が捉えている保護者の妊娠・中絶等に対する考え N = 57

図7のように、結婚前の性行為に対しては42%の学生が保護者は反対していると捉えているが、19%は保護者が結婚前の性行為を認めていると捉えている。結婚前の妊娠については、半数の学生が保護者は反対していると捉えており、9%が保護者は結婚前の妊娠を認めていると捉えている。結婚前の出産に反対し中絶するように勧めるだろうと捉えている学生は19%で、中絶に反対し出産を勧めるだろうと捉えているのは23%である。性行為と妊娠については6割の学生が明確な保護者の意見を感じ取っているが、4割には保護者の意見は感じとれていない。結婚前に妊娠したら中絶を勧めるか出産を勧めるかに関しては4割の学生しか保護者の意見を捉えていない。

⑧-1 保護者の結婚前の性行為に対する考えと学生の性行為に対する考えの関係

図8-1～9では学生が捉える保護者の考えと学生自身の

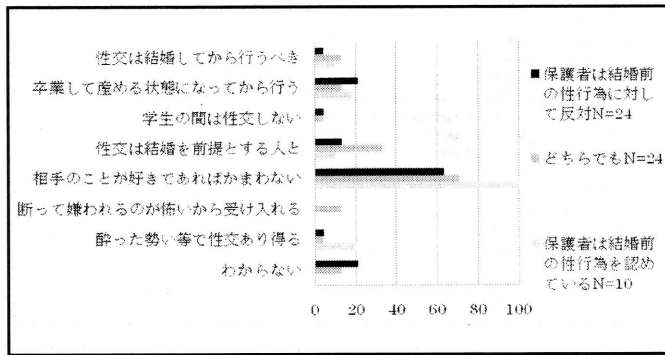


図8-1 保護者の考え（性行為について）と学生の考え（性交について）

考えをクロスしてみた。まず、図8-1をみると、“保護者が性行為に反対している”と思っている学生は、他の学生に比べて“性交は相手のことが好きであれば構わない”という学生が有意に少なかった。保護者がきちんと性について子供と向き合い望ましい性について伝える事が子供の安易な性行為に歯止めをかけることに繋がる。

⑧-2 保護者の結婚前の性行為に対する考えと学生の避妊に対する考えの関係

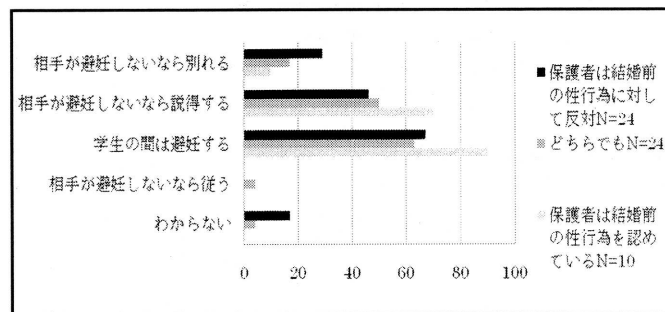


図8-2 保護者の考え（性行為について）と学生の考え方（避妊について）（複数回答）

図8-2では、“保護者が結婚前の性行為に反対している”と捉えている学生は“相手が避妊しない”場合、説得するより決意が固い“別れる”と答えた学生が少し多

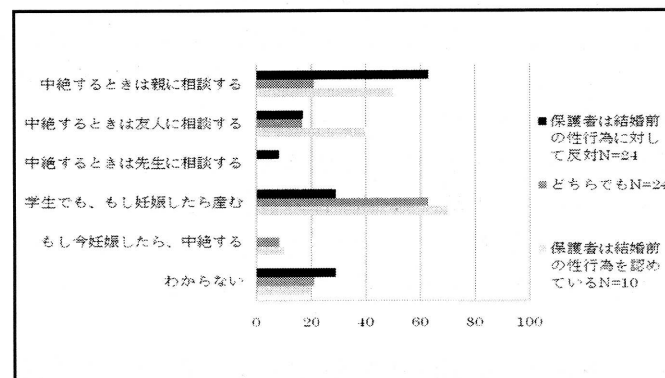


図8-3 保護者の考え（性行為について）と学生の考え（中絶について）

いが有意差まではみられなかった。性行為に対する親の意は子供の避妊の有無に大きく影響しているとは言えなかった。

⑧-3 保護者の結婚前の性行為に対する考えと学生の中絶に対する考えの関係

図8-3でみると“保護者が結婚前の性行為に反対”しているか“認めている”かわかっていない学生は、分かっているか“認めている”学生に比べ“中絶するとき親に相談する”学生が有意に少ない。“保護者が結婚前の性行為に反対している”と捉えている学生は、そうでない学生に比べ“中絶する時親に相談する”学生が有意に多かった。“保護者が結婚前の性行為を認めている”と捉えている学生は“中絶するときは友達に相談する”学生が有意に多かった。また、“保護者が結婚前の性行為に反対している”と捉えている学生は“学生の時妊娠したら産む”という学生が有意に少なかった。親が結婚前の性行為に反対しているかどうかは、結婚前に妊娠した場合産むと思うかどうかに影響している。

⑧-4 保護者の結婚前の妊娠に対する考えと学生の性行為に対する考えの関係

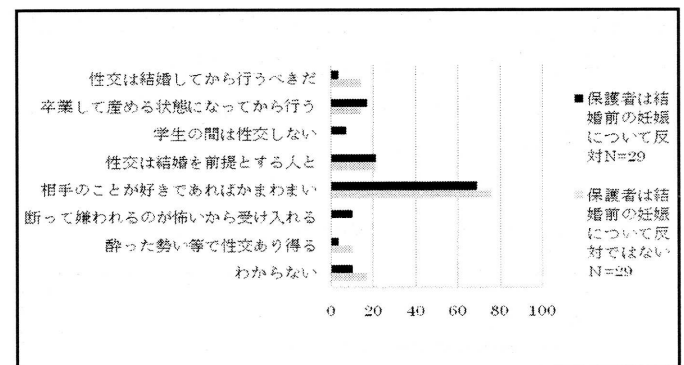


図8-4 保護者の考え（妊娠について）と学生の考え（性交について）（複数回答）

図8-4のように“保護者が結婚前の妊娠”に反対しているかどうかは学生の“性行為に対する意識”に有意な影響は与えていなかった。

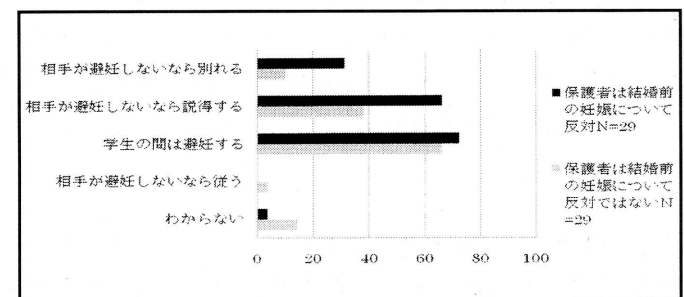


図8-5 保護者の考え（妊娠について）と学生の考え（妊娠について）（複数回答）

⑧-5 保護者の結婚前の妊娠に対する考えと学生の避妊に対する考えの関係

図8-5を見ると“保護者が結婚前の妊娠に反対している”と捉えている学生は“認めている”と捉えている学生に比べて、“相手が避妊しないなら別れる”や“説得する”人が有意に多かった。親が明確に結婚前の妊娠に反対しているということを伝えることは子供（学生）の避妊に対する意識を高めることに役立っていると考えられる。

⑧-6 結婚前の妊娠に対する考えと学生の中絶に対する考えの関係

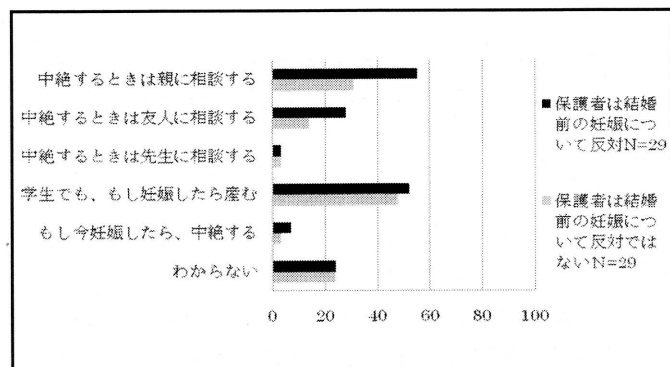


図8-6 保護者の考え（妊娠について）と学生の中絶について

図8-6を見ると“保護者が結婚前の妊娠に反対している”と捉えている学生は“保護者は結婚前の妊娠を認めている”または、“わからない”と捉えている学生より、“中絶するときに親や友人に相談する”という学生が2倍近くいたが有意差まではなかった。また、“保護者が結婚前の妊娠に反対している”ことは、学生のときに妊娠したら産むかどうかには有意には影響していなかった。つまり、親が妊娠に反対していることは、子供がもし結婚前に妊娠した時、中絶するか産むかには影響していないし、もし、中絶しようとした時、親や友人に相談するかどうかには大きくは影響していない。しかし、中絶するときに親に相談したかどうかは中絶後の心身の健康に大きくかわってくるので、結婚前の妊娠に反対であった時もせめて、反対であるがもし妊娠した時には相談してほしいことを付け加えて相談しやすい状況を作ってもらいたいとは感じた。

⑧-7 保護者の結婚前の中絶、出産に対する考えと学生の性交に対する考えの関係

図8-7を見ると、“保護者は結婚前の妊娠、出産に反対で中絶するよう言うと思う”学生は、“相手が好きならかまわない”と思う学生が他の考えの9倍多く、性行為について安易に捉えている様子が伺える。安易に妊娠したなら中絶すればいいと考えている可能性がある。

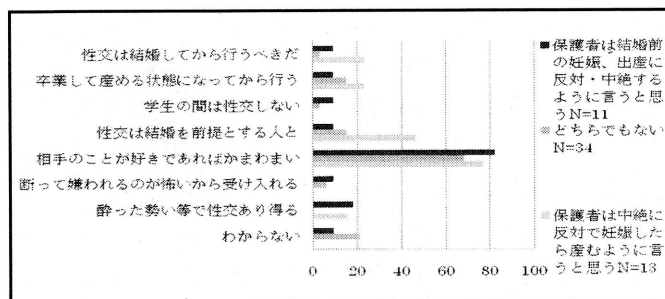


図8-7 保護者の考えと学生の考えの関係（性交について）（複数回答）

“保護者が中絶に反対で妊娠したら産むように言うだろう”と捉えている学生には“性交は結婚してからすべき”という考えが有意に多かった。命の大切さを伝えることが安易な性交に歯止めをかけることができている可能性がある。

⑧-8 保護者の結婚前の中絶、出産に対する考えと学生の避妊への考えの関係

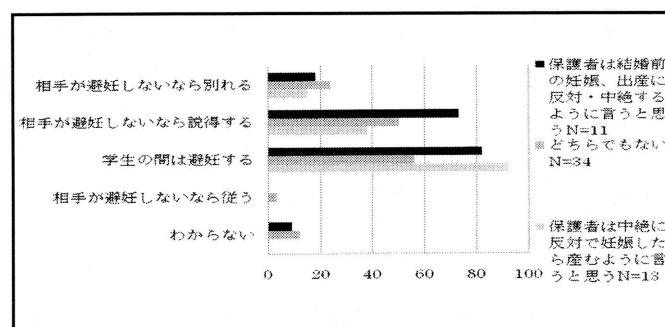


図8-8 保護者の考え（妊娠、中絶について）と学生の考え（妊娠について）の関係（複数回答）

図8-8のように“相手が避妊しないなら説得するだろう”という学生は、“保護者は結婚前の妊娠、出産に反対し、中絶するよう言うと思う”と捉えている学生が“保護者は中絶に反対し産むように言うだろう”と捉えている学生の2倍いたが有意差はなかった。親が中絶や出産にどう思っているかは子供が避妊するかどうかに大きな影響はなかった。

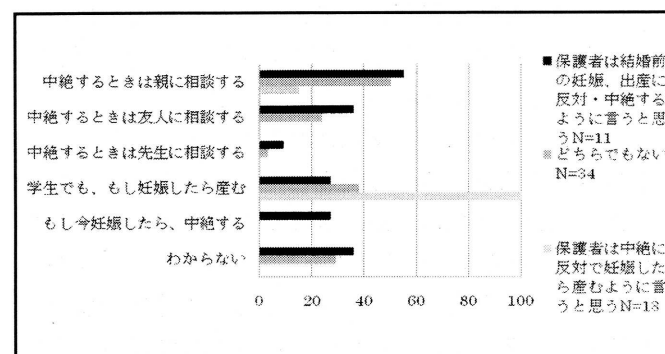


図8-9 保護者の気持ち（妊娠、中絶について）と学生の気持ち（中絶について）の関係（複数回答）

⑧-9 保護者の結婚前の中絶、出産に対する考えと学生の避妊への考えの関係

図8-9のように“保護者は中絶に反対で、妊娠したら産むように言うと思う”と捉えている学生は“中絶するとき親には相談しない”と答える学生が有意に多かった。中絶に反対されるので親には相談しないのだろうが、友達にも相談せず、中絶自体をしないと答え、全員が“学生時代にもし妊娠したら産む”と答え、有意に多いといえる。“保護者が結婚前の妊娠、出産に反対で中絶するように言うだろう”と捉えている学生はその他に比べ“今妊娠したら中絶する”と答えている学生が有意に多い。親の中絶に対する考えは、子供が中絶するか、産むか、また、中絶するとき誰に相談するかに大きく影響していた。

有意差の検定には χ^2 検定($p < 0.05$)を使用した。

IV まとめ

平成18年度に10代の中絶で佐賀県がワースト1になった。本短大でも、それまで性教育の必要性を感じてはいたが、なかなかアンケート調査を行ったり、性教育を行ったりするチャンスを作ることができなかった。しかし、佐賀県がワースト1になったことをきっかけに性教育やアンケート調査をしやすい状態になった。まずはワースト1であることがわかってすぐの平成20年9月にアンケートをとり、学生の性に関する現状を把握した。その内容を基に平成21年4月の2年生へのオリエンテーション時に性教育を行った。その後、禁煙教育のきっかけも得て、全学年に対し禁煙教育と性教育を行い、その前後の学生の意識の変化を調べた。また、追加アンケートで保護者の考えの影響を調べてみた。

性教育はほとんどが行われているが、教えられていない内容の中に本人たちが知りたい内容があり、その内容を中学校時に友達やインターネットから得ている。まだこの時期では、知識は教えるには早すぎる、返って助長させてしまう、と配慮しているうちにその与えなかった知識は興味本位な部分のみを選択して得てしまい、付随して得るべき知識を得ないまま大人になり行動を起こしてしまう。その結果、本人の予想外の妊娠、中絶に至り、その子らの心と体を痛めることにつながっている。

今回、これらの内容を基に性教育を行ってみた。そしてその前後で意識の変化を調査した結果、性交為に対する意識は有意に変化したが、避妊や中絶に対しては有意な変化は見られなかった。知識としては今まで知らなかったことを学び、多くの学生は性教育によって意識が変わったと答えた。そして、これらの内容の性教育は中学生の時に知りたかったと答えた。

そして、親の考えが子供(学生)の考えに及ぼす影響

については、性教育以上の影響が見られた。

子供が“安易な性交為を行うかどうか”に影響しているのは、保護者が結婚前の性交、妊娠、出産等をどう捉えていると子供が見ているかであった。親が“婚前の性交には反対”しているが、もしも妊娠してしまったら、“大切な命だから産むように言うだろう”と思っていると、子供は安易な性交はせず、きちんと産めるようになってからにしようという意識をもっていた。しかし、現実を見るとそのきちんと産める相手という学生の判断は、甘いものにも感じる。学生との話の中で、女子学生は付き合っている人との結婚を思い描いているが、男子学生はまだまだ結婚する気はないという学生が多いように感じている。

結婚前(学生時等)に妊娠した場合、“産むかどうか”に影響していたのは、親が産むように言うと思うかどうかであった。

結婚前(学生時等)に妊娠したら“中絶するかどうか”においても、親が中絶するように言うと思うかどうかに大きく影響されていた。

また、親が結婚前の“性交為には特に反対していなくて、中絶には反対し、産むよう勧めるだろう”と思わせてしまうことは、子供(学生)を真剣に避妊させない要因になっていた。生命の尊重や母体への影響のために、“中絶に反対し産むことを薦める”だけではなく、婚前の性交に安易に踏み込まない、きちんと避妊することの大切さをしっかり伝えた上での中絶反対でなくては婚前の妊娠を増やしてしまう結果になってしまうようであった。

学校で教員等が性教育をして知識を与えることは、安易な性行為に対する意識を変化させるためには大変必要だが、避妊、中絶、出産についての子供(学生)の考えを大きく左右しているのは保護者の考えでもあるので、保護者への性教育も大変必要であると感じた。

今後は、今回の性教育で有意な変化が見られなかった“避妊や中絶に対する意識”に変化が見えるような内容に検討していくとともに、保護者への性教育(便り等)についても考えていきたい。

謝 辞

ご協力いただきました関係各位に感謝いたします。

参考文献

1. 木原雅子：10代の性行動と日本社会—そしてWYSH教育の視点—、ミネルヴァ書房
2. 吉村浩美：10代の性の知識と現状 1～短大生へのアンケート結果から～、佐賀小児保健研究 第11号、佐賀県小児保健協会

3. ユートピアハンドブック、NPO法人ウイメンズサポートネットワーク
4. 野口菜美（担当吉村浩美）：命の大切さについて～妊娠・中絶の視点から～、平成19年度佐賀短期大学生活福祉学科 卒業抄録集